

今から遡ること七十六年、戦火に包まれていた時代に、精一杯未来に向けて生き抜いた一人の孤児のおはなし

大声で怒鳴る、ということ

映画監督・山田洋次

西村滋さんの人間を見る眼はじつに鋭く、かつ優しいから、『お菓子放浪記』に登場するさまざまな人間像は、まるで眼の前に浮かぶように魅力的で存在感に溢れている。美しい富永先生、渋い人情家の遠山刑事、格好いい千吉、口うるさいフサノばあさん、etc、etc。その中でぼくがひとつがひとときわ興味を持つのは、報徳学院の日比野指導員、少年たちに「ホワイトサタン」のあだ名で忌み嫌われている嫌な男である。

彼の特徴は、色黒でゲジゲジ眉毛といった悪者の姿ではなくて、その反対の美貌で優男と云うところにある。この色白の優男は声が大きくて、ふた言めには国家のため、天皇陛下の御為にと叫ぶ超国家主義者である。『お菓子と娘』の歌を教える富永先生に「敵性国の歌は止めもらいます！」と怒鳴り、真珠湾攻撃の話をしながら涙をこぼし、反抗する生徒をサディスティックに殴りながら自分で興奮する、と云った精神のバランスを欠いた異常者だが、じつはこの手の男が軍国主義の時代には沢山いた、というよりこういった連中が大手をふるって歩いていたのが戦時下だった、ということをぼくはこの本を読みながら思い出す。

このホワイトサタンのタイプの人間が近頃ぼくたちの国に再びうごめき始めているような気がする。眞面目な人たちが穏やかな声で語るところへ大きな声で間違った乱暴な論理を怒鳴り立てるところなどは、と云うような現象がさまざまな社会で見られないだろうか。たとえば、ヘイトスピーチをがなり立てる人たちの数はごく少数なのだけれど、静かに語るその何十倍何百倍の人々の声を圧倒してしまう、と云うような現象。ホワイトサタンの上司である主任の渡邊先生は、多分穏やかでない人のようだらうが「日比野君にも困ったもんだ、私が口を出しても非国民扱いだからねえ」とぼやくしかない。じつは僕自身を含めてこれが今日の善良な市民たちの姿なのでないか。

西村滋さんは、名作『お菓子放浪記』を通してそんなことでいいのか、国家とか国益とか國力とか愛国と云う単語を大声で怒鳴る人をあまり信用してはいけないのだ、ということを今の暴力的政局的な政治のあり方を予見しつつ訴えた、いや今も懸命に訴えているような気がしてならない。この作品の舞台化は、そこにこそ意義があるはずだ。（2014年記）



《出演》



小宮 明日翔



いまむら 小穂



宮川 知久



井田 友和



矢内 佑奈



水谷 敏行



片山 美穂



春田 ゆり



門田 かおり



神谷 未来紘



山田 健太



野崎 亨類



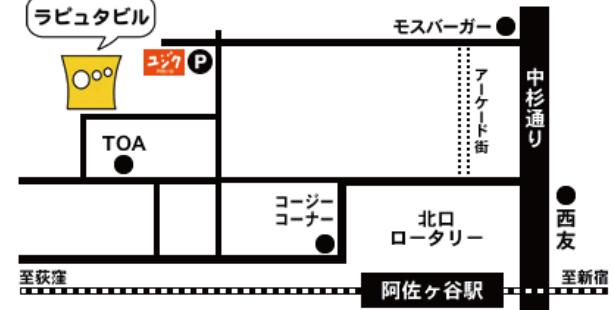
根岸 唯



東京都杉並区阿佐谷北 2-12-21 ラピュタビル B1F

TEL: 03-5327-7640

ザムザ阿佐ヶ谷



JR 中央線・総武線 阿佐ヶ谷駅 北口より徒歩 2 分

※新宿より快速で 9 分

※土日は快速が止まりません。

【動画視聴における推奨環境】

観劇三昧アプリを利用せず、ブラウザでの視聴となります。

[スマートフォン、タブレット]

iOS 12.0 以降 (Safari、Google Chrome)

Android OS 6.0 以降 (Google Chrome 最新バージョン)

[パソコン]

Windows 10 バージョン 1903 以上 (MS Edge、Google Chrome 推奨)

MacOS 10.12 以上 (Safari、Google Chrome 推奨)

※端末やソフトウェアの故障や損傷がないことをご確認下さい。

【通信環境について】

閑静や電波が弱い場所ではないか、パケット残容量があるかを事前にご確認下さい。

スマートフォン、タブレット、モバイル PC による、電車等での移動中のご視聴、喫茶店、レストランなど公衆無線 LAN に接続してのご視聴は安定した速度を確保できませんのでお控え下さい。

共有 Wi-Fi を使っている場合は、使用していない端末の Wi-Fi を OFF にし、ルータとの間に障害物を置かないで下さい。

人混みやコンクリートで囲まれた場所は避けて下さい。

この他、お客様起因による視聴トラブルについては、一切の責任を負いかねますことをご了承下さい。

※

データ通信量が多くなることが想定されるため、Wi-Fi のご利用を推奨致します。